

タイ国の騒乱に思う 自動車，米，国王

今年の5月の連休にはタイを3年ぶりに訪問することを楽しみにしていた。主な訪問目的は一橋大学とタイのタマサート大学共催のアジア金融フォーラムへの参加であった。一橋大学の清水啓典教授からお誘いいただいた。フォーラムのテーマである「グローバル金融危機とアジアの金融システム」は時宜を得たもので早くから出席を決めていた。これに加えて二つの楽しみがあった。一つはタイトヨタ(トヨタ・モーター・タイランド)の工場見学であり一つはタイの旧友達との再会であった。

しかし、3月中旬から始まった『赤シャツ』を着たタクシン元首相支持の群衆のバンコック中心部の占拠にはじまる騒乱は深刻化していった。宿泊予定先のホテル周辺での衝突で多くの犠牲者がでる事態を見てタイ訪問を断念した。

今回計画したタイトヨタの工場訪問はアジアのデトロイトと称されるほど発展したタイの自動車産業の現場とタイトヨタ工場内で操業している精米工場の見学が目的であった。特に精米工場建設のエピソードを数年前に村松・元タイトヨタ社長に伺い大変感銘をうけてぜひ見学の機会を願っていた。村松氏から伺った精米工場建設の経緯は次のようなことであった。1997年にタイを襲った通貨・経済危機はタイの自動車産業を直撃した。自動車の販売台数は59万台(1996年)から14万台(1998年)まで急減した。その危機にあたって欧米の自動車メーカーは工場撤退、下請け企業への発注停止などの対策をとった。しかし、日本の自動車企業はタイトヨタを中心に協力・分担してタイの自動車産業の将来のために必要な下請け部品企業へ発注の継続、技術指導、経営合理化など支援を強化した。この結果、タイの自動車部品企業は生き残り、むしろ危機を利用して現在の自動車産業躍進の基礎を固めた。

この日本の自動車企業の貢献をプーミポン国王は高く評価されて、経済危機の終息した後で王宮に村松社長を招かれ謁見をされて謝意としてトヨタ車をまとめてお買い上げの意向を表明された。トヨタは王様から代金を頂けなく献上させていただくと申し上げてもお聞き入れならず代金を頂くことになった。頂いた代金を何かタイに役立つ事業の基金として活用したいと考えた村松社長は謁見時に国王がタイの農民が貧しいこと、その理由が米の複雑な流通機構にあ

り中間マージンが高く農民の手取りが低いことを懸念されていたことを思い出した。

そこから農民支援のプロジェクトとして精米所建設を構想したという。日本の佐竹製作所から精米機を購入して最新鋭の精米所を建設し、農民から米を購入して精米はタイトヨタの自動車販売店でプロモーション用に配布するという仕組みをつくり上げた。国民から敬愛されている国王の農民を思う心とタイトヨタの現地CSRが見事に結びついた。

タイの自動車産業は今年の生産台数は150万台を越えて、2015年には200万台を越えると予測され日本につぐ自動車輸出国としての地位を固めている。そのうち日系メーカーの生産シェアは92%に達している。タイの有力輸出品目としての米の地位を自動車が取って代わった。今後も日産のマーチのタイへの生産移転、トヨタの世界市場向けのピックアップ・トラックの集中生産など日本の海外自動車生産基地としての地位を益々高まることが予想されている。

今回のタイの政治危機の背景には農村部と都市部の経済格差から貧困農民層の不満が深まりそれをタクシングループの政治力の基盤にしているとする見方が一般的である。国民の父として敬愛されているプーミボン国王が憂慮もそこにあった。従来タイ政治危機には必ず国王が最後の調停者としての役割を果たされてきたが今回は政治の前面に出られる場面はなかった。末廣昭教授が「タイ中進国の模索」の中で指摘されているようにタイ社会が発展途上国から中進国へ発展する現代化の過程での王制の役割の変化を反映しているのかもしれない。今回の訪問でタイの旧友達との集まりで彼らにタイ経済・社会の変化についての意見を聞くことを楽しみにしていた。

45年前にペンシルバニア大学に留学したときに私のルームメイトがタイからの留学生のヴィラポン君であったことからタイの学生グループのメンバーに入れてもらった。ヴィラポン君は帰国してタイを代表するエコノミストになり、国王の経済顧問として1984年のパーツ切り下げと経済改革を断行し、タイ経済工業化への離陸を成功させた。大蔵大臣を務めた後、1998年の経済危機時には国王の指名で経済担当副総理としてタイ経済を破綻の淵から救い出した。その復活過程でタイ中銀総裁として金融政策を担当したプリデアトーン君も同じ仲間であった。彼らからタイの今後についての意見を聞く機会も逸したが政治動乱が収束し、「微笑の国」を早く訪問できることを願っている。

(信金中央金庫 地域・中小企業研究所所長 平尾光司・ひらおこうじ)